

2. 21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
21	桜木町駅前	日本大通り駅県庁前、元町、山元町1丁目、旭台、根岸駅前	市電保存館前	滝頭		B	深夜バス運行
21系統解説	滝頭営業所の主要路線です。桜木町駅を出たバスは日本大通り駅県庁前まで国道133号線を走り、県庁前で右折。ついで横浜スタジアム前で左折し、元町、麦田のトンネルを抜けて右折。柏葉、山元町1丁目、根岸の森林公園の脇を通り旭台に行きます。旭台で左折して不動坂を下ります。更に根岸駅前を経由して市電保存館前まで行きます。路線内でのアップダウンの激しい路線です。						
22	保土ヶ谷駅西口	花見台、仏向町団地、和田町駅、星川駅前	保土ヶ谷駅西口	保土ヶ谷		C	小型車運行
	保土ヶ谷駅西口	星川駅前、和田町駅、仏向町団地、仏向地域ケアプラザ前、仏向原坂	和田町駅	保土ヶ谷		AC ← PC →	小型車運行 午前は和田町駅発が2本、午後は保土ヶ谷駅西口発が2本運行
22系統解説	以前の22系統は21系統の補助路線として桜木町駅～市電保存館を走っていましたが、21系統に統合され、その後新しく保土ヶ谷地区の循環線として生まれ変わりました。保土ヶ谷駅西口を出て保土ヶ谷小学校前で左折、桜ヶ丘、花見台と25系統と同じルートを走ります。花見台から先は22系統オリジナル区間で、横浜新道の脇を走り仏向町(ぶっこうちょう)団地、和田町駅、星川駅を通り、保土ヶ谷駅西口に戻ります。花見台から先の道路が非常に狭く、小型車の運行になっています。2010年3月23日から子系統として和田町駅から仏向原坂、仏向地域ケアプラザ方面を走るルートが一日2往復運転されるようになりました。保土ヶ谷駅西口発の場合、和田町駅を2回通ります。						
23	中山駅前	十日市場駅前、長津田駅前、こどもの国入口	奈良北団地折返場	若葉台		C	中山駅～長津田駅前間は頻度B 土休日の運行頻度はC
	中山駅前	十日市場駅前	長津田駅前	若葉台		B	
	十日市場駅前	青葉台営業所、田奈駅、こどもの国入口	奈良北団地折返場	若葉台		B	十日市場駅前～前川神社前間は頻度C
	中山駅前	十日市場駅前、郵便局前、若葉台車庫前	若葉台中央	若葉台	東急 神奈中	C	中山駅～十日市場駅間は頻度B 共通定期券取扱区間は十日市場駅～若葉台中央間
	青葉台駅	十日市場駅前、郵便局前、若葉台車庫前	若葉台中央	若葉台		A	神奈中バスは十日市場駅～若葉台中央間の運行
	青葉台駅	十日市場駅前、杉沢	三保中央	若葉台		C	
23系統解説	横浜市営バスでもっともバリエーションの多い系統の一つです。基本は中山駅から長津田駅経由奈良北団地線なのですが、長距離路線かつ渋滞の激しい区間を走ることなどから現在ではこのルートは一日7～8往復になってしまいました。その代わりに、十日市場駅から稲荷前経由の奈良北団地行きの本数が増えました。もう一方の代表格路線である青葉台駅～若葉台中央線は本数も多く、また乗客も多い路線です。朝のラッシュ時など、若葉台中央から十日市場駅までは約2分おきにバスが出ています。三保中央線は青葉台駅と三保中央を結ぶ路線です。長らく緑営業所、そして緑営業所と若葉台営業所の共管体制でしたが、2007年3月のダイヤ改正で若葉台営業所単独所管系統となりました。また同時に中山駅口の路線が大幅に減便されました。						

2. 21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
24							
24系統解説	横浜駅西口から鶴見営業所のある生麦まで行くバスでした。横浜駅から生麦へ向かうわけですが、東神奈川駅西口に着いたバスは生麦とは違う方向に走り、六角橋から六角橋北町、武相台、菊名橋、内路(うつろ)、大口駅東口、入江橋と回り、入江橋で左折し国道15号線に入るとその先は新子安を通り生麦に至るルートでした。起終点の間の直線距離はさほどないのですが、路線としては遠回りをしていることから朝の生麦発1本、平日夜の横浜駅西口発最終便の1本は青木橋～入江橋間を国道15号線(新町)経由で運行されていました。2007年3月の路線再編で38系統らと統合する形で廃止となりました。						
25	横浜駅西口	洪福寺、星川駅前、保土ヶ谷野球場前	保土ヶ谷駅西口	保土ヶ谷		B	深夜バス運行 (保土ヶ谷駅西口→星川駅→保土ヶ谷車庫前間)
	保土ヶ谷駅西口	保土ヶ谷野球場前、星川駅前、大門通	保土ヶ谷駅西口	保土ヶ谷		RB	循環線は平日朝夕、土休日の朝のみ運行(頻度は運行時のもの)
25系統解説	保土ヶ谷区の桜ヶ丘、花見台、保土ヶ谷球場といった高台の地域と横浜駅・保土ヶ谷駅を結ぶ重要な路線で、保土ヶ谷営業所を代表する路線です。横浜駅西口からのバスは鶴屋町3丁目から浅間下を經由し洪福寺交差点は直進します。その先大門通で右折し、しばらく相鉄線沿いに走り星川駅まで走ります。その先で左折し、高台へと上っていきます。明神台から高校野球の予選会場で有名な保土ヶ谷球場前を通り、花見台へ。そこで左折し、桜ヶ丘まで走ります。その先は今度は下り坂で保土ヶ谷小学校前。右折してしばらく行くと保土ヶ谷駅西口終点です。かつては横浜駅西口～保土ヶ谷駅西口線のみでしたが、現在では保土ヶ谷駅西口発の循環便も朝夕を中心に運行されています。						
26	本牧車庫前	本牧ふ頭入口、山下公園前、大棧橋	横浜駅東口	浅間町 本牧		C	横浜港シンボルタワーは日中時間帯に1時間に1本運行(季節によって運行時間帯が異なる)
	横浜港シンボルタワー	本牧ふ頭入口、山下公園前、大棧橋	横浜駅東口	浅間町 本牧		DC	
	海づり棧橋	本牧ふ頭入口、山下公園前、大棧橋	横浜駅東口	浅間町 本牧		B	
26系統解説	山下公園の前を走る路線です。横浜駅を出たバスは桜木町駅を經由し、横浜第2合同庁舎前を左折し、さらに次の交差点で右折し、海岸通りに入ります。大棧橋、山下公園、マリントワーといった観光地の前を通り、その後は産業道路をみなと赤十字病院入口、小港橋と走ります。小港橋で左折し、本牧ふ頭方面に入っていきます。本牧ふ頭入口で路線は2つに別れ、1つは右折した後再度産業道路に入り、本牧車庫前まで行きます。直進するバスは本牧ポートハイツ前を通り、海づり棧橋まで走ります。その先は本数が少なくなるのですが、横浜港シンボルタワーの前まで行く便があります。 以前は山下公園の周辺は休日などは車の往来が激しいことから、土曜・休日は横浜駅・桜木町駅からの便は海岸通りを通らず、県庁前、中華街入口経由で運転されていました。休日扱いとなる年末年始は長いときで1週間程度、山下公園の前を小港橋方向に行く便が走らない日が続きましたが、2004年2月1日のみなとみらい線開業に伴い、土曜、休日も山下公園経由で運転されるようになりました。本牧車庫前発着便もあり、本牧営業所も担当していますが、最近では浅間町営業所の担当分が多いようです。						

2. 21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
27	鶴見駅前	汐鶴橋通、潮田神社前、入船橋、安善駅前	安善町	鶴見		C →	鶴見駅前発のみ
	安善町	安善駅前、寛政、汐入町2丁目、汐鶴橋通	鶴見駅前	鶴見		RC →	安善町発朝夕のみ
	安善町	安善駅前、寛政、汐入町2丁目、本町通2丁目	鶴見駅前	鶴見		DC →	安善町発日中のみ
27系統解説	<p>1997年の路線図カレンダーでは一の瀬～鶴見駅～安善(あんぜん)町となっていたのですが、今では鶴見駅～安善町となりました(ちなみに、一の瀬まで行っていた頃、鶴見駅～一の瀬間は1日1、2本という状態でした)。鶴見駅を出たバスは、汐鶴橋を通り、本町通1丁目へ行きます。ここで上りと下りで走るルートが違う区間に入り、入舟橋まで行きます。入舟橋で左折し、産業道路を寛政(かんせい)まで1区間分走ります。そこで右折し、JR鶴見線の安善駅に出ます。踏切を渡り、3つ目のバス停が安善町です。</p> <p>2014年3月に路線変更が行われ、安善町発が15系統と一部区間ルートを入れ替え、汐入町2丁目経由になりました。安善町発は朝夕は汐入町2丁目から先、汐鶴橋通ですが、日中は本町通経由になりました。</p>						
28	平和台折返場	権太坂、保土ヶ谷駅東口、水道道	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷		IC →	休日・年末年始運休
28系統解説	<p>以前は山下ふ頭～芹ヶ谷間を結ぶ長距離路線だったのですが、長距離路線廃止の波に巻き込まれ、この区間のみ残りました。平和台～保土ヶ谷橋周辺の区役所へ(峰小学校前)の足と、79系統の入庫線という印象の路線です。平和台折返場を出ると浜松町まで東海道筋を走り、尾張屋橋を渡って保土ヶ谷車庫へ向かいます。2005年7月の民間への路線移譲を前提としたダイヤ改正の影響で平和台折返場発のみの運行となりました。</p>						
29	横浜駅前	東神奈川駅西口、岸谷、三ツ池道	鶴見駅前	鶴見		C	横浜駅前～三ツ池道(鶴見駅方向は宮の下)間は7系統と合わせて頻度B
29系統解説	<p>川崎駅行きの7系統同様、横浜そごう(現:そごう横浜店)オープンと同時に横浜駅西口発から東口発になった路線です(古くは東口発着でしたが)。横浜駅を出て青木橋を渡り、後は第2京浜を三ツ池道の交差点まで走ります。そこで右折して鶴見駅前に向かいます。横浜駅から三ツ池道・宮の下までは7系統とほぼ交互に運行されます。所要時間は横浜駅発の場合、鶴見駅でも川崎駅でもほぼ同じ時間となります。</p>						
30							
30系統解説	<p>かつては県庁前～上大岡駅～上永谷駅～平戸～芹ヶ谷という長距離の路線バスだったのですが、最終的には上大岡駅～上永谷駅～芹ヶ谷を中心とした運行となりました。全区間を神奈中バスが並行して走るため、路線移譲対象となり、2006年1月28日の運行をもって市営バスは撤退し路線は廃止となりました。廃止前は上大岡駅～上永谷駅～京急ニュータウンという路線もありましたが、こちらは路線移譲と同時にそのものが廃止となりました。</p>						
31	横浜駅西口	東神奈川駅西口、白楽、大口仲町	大口駅前	浅間町		C	小型車運行
31系統解説	<p>小型車を使った路線です。横浜駅西口から東白楽までは大通りを走りますが、東白楽から狭い道路に入っていきます。急な坂、狭い曲がり角を抜けて横浜線の大口駅前にいきます。2007年8月まではその先入江1丁目から第2京浜道路に再度出て、東神奈川駅西口を経て横浜駅西口に戻る循環路線でしたが、路線再編で大口駅前での折返し路線に変更となりました。</p> <p>専用車両を使用する路線です。1983年頃まで添乗員が乗務し、ツーマン運行を行っていました。またその為、冷房車の導入が遅れた路線でした(18系統も同様)。</p>						

2. 21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
32	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷駅東口、久保山霊堂、市庁前	日本大通り駅県庁前	保土ヶ谷		RC →	平日の朝・夕日本大通り駅県庁前行のみ運行。 中型車運行
	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷駅東口、久保山霊堂、市庁前	新県庁前	保土ヶ谷		RC ←	平日の朝・夕新県庁前発のみ運行。 中型車運行
	保土ヶ谷車庫前	保土ヶ谷駅東口、久保山霊堂、羽衣町	関内駅北口	保土ヶ谷		C	中型車運行
32系統解説	<p>以前は保土ヶ谷車庫前から一本松小学校前までの路線でした。両地点は近道で行けば約15分で行くところをその4倍の約1時間かけて走る路線でしたが89系統と分断の上短縮されてしまいました。保土ヶ谷車庫前を出たバスは洪福寺を経て尾張屋橋を渡り、保土ヶ谷駅東口へ行きます。保土ヶ谷橋交差点を左折、さらに次の交差点を左折し、久保山に入っていきます。久保山霊堂前を通り、久保山バス停に出ます。そこから阪東橋にまで進み鎌倉街道に入ります。その後尾上町で右折、平日(2007年2月末までは土曜日)朝夕は市庁前で左折し日本大通り駅県庁前へ行きます。その他の時間帯、曜日は右折して関内駅北口に行きます。2001年11月から県庁前(現在は日本大通り駅県庁前)発着便については変更があり、県庁前で乗り場が新県庁前に変更になりました。</p> <p>春と秋の彼岸シーズンには久保山霊堂付近に交通規制が実施されるためこの期間中の休日日中(土曜日に実施される場合もあり)は保土ヶ谷車庫前発が元久保町→黄金町間で通常相鉄バスの走るルートを行回運行します。</p>						
33							
33系統解説	<p>かつては中山駅前(最終的には北口)から貝の坂、川和町、市が尾駅を通り、市が尾駅からは国道246号線を通って江田駅、あざみ野駅を経由してたまプラーザ駅に至る路線でした。市営地下鉄のあざみ野開業、その後の港北ニュータウン地区のバス路線の整理に伴い、この系統は旧89系統(市が尾駅～市が尾駅循環線)、311系統(センター南駅～あざみ野駅)の一部を引き継ぐ形で市が尾駅～たまプラーザ駅間の路線となりました。この改変によって市が尾駅から荏田新道間の国道246号線を走る市営バスはなくなりました。路線変更当初は1時間あたり1本程度の運行だったのですが、後のダイヤ改正で大幅減便となり現在はたまプラーザ駅までは毎日2往復、あざみ野駅までは平日は4往復、土曜、休日は2往復という運行になりました。あざみ野駅は以前は東急バスのバスターミナルに乗り入れていましたが、市営地下鉄のあざみ野開業時に駅の反対側に市営バス専用のバスターミナルができ、現在はそこから発着しています。2007年3月にあざみ野駅～たまプラーザ駅間が廃止されました。</p> <p>2007年4月以降は生活交通バス路線として横浜市からの補助金を受けて運行していましたが、2013年3月末に支給期限が切れて廃止となりました。</p>						
34	横浜駅西口	三ツ沢総合グランド入口、翠嵐高校前、沢渡	横浜駅西口	浅間町 保土ヶ谷		B →	一方循環
34系統解説	<p>横浜駅西口から出る循環線の中では最も距離の短い路線です。横浜駅西口を出ると岡野町、浅間下を通り、三ツ沢グランド方面に向かいます。三ツ沢グランドの入口のところで右折します(実際は直接右折せず他の系統が停車するバス停の周囲を一回りして向きを変えます)。その先は狭い道を一路下っていきます。翠嵐高校前、沢渡を通り、泉町に出ます。そこから横浜駅西口へは一直線です。かつては保土ヶ谷営業所の単独担当路線でしたが、現在では浅間町営業所との共担路線となっています。</p>						

2. 21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
35	横浜駅西口	三ツ沢総合グランド入口、神大寺入口、松本、反町、青木橋	横浜駅西口	浅間町 保土ヶ谷		C →	一方循環 神大寺入口→横浜駅西口は頻度B
	神大寺入口	栗田谷、反町、青木橋	横浜駅西口	浅間町 保土ヶ谷		C →	神大寺入口発のみ運行 (逆方向は50系統として運行)
35系統解説	35系統と50系統は同じ循環線の外回り・内回りです。循環線ですが、大阪のJR大阪環状線のように、循環をする本数は少なく、半分以上が横浜駅西口から50系統で途中の神大寺入口まで行き、そこで折り返して35系統で帰ってきます。乗客の数・及び三ツ沢地区の渋滞を考慮したダイヤ編成のようです。35系統としてのルートは横浜駅西口を出ると、岡野町、浅間下、三ツ沢総合グランド入口を経て、片倉町入口で右折します。片倉町入口の2つ先が神大寺入口です。ここは三ツ沢墓地のすぐそばです。しばらく山の上を走り、松本に下りてきます。その後は東横線の反町駅を経て青木橋、鶴屋町2丁目から横浜駅西口に戻ります。三ツ沢墓地へはかつて墓地利用者のために墓地の前に停車する臨時循環路線があったのですが、市営地下鉄の新横浜延伸に際して廃止されました。2014年3月に路線変更が行われ、神大寺入口発の一部の便が急行便となりました。						
36	横浜駅西口	東神奈川駅西口、六角橋、片倉町駅前、西菅田団地、菅田町、鴨居駅前	緑車庫前	緑 浅間町		B	横浜駅西口～菅田町間は頻度A 東神奈川駅西口発の深夜バス運行
	横浜駅西口	東神奈川駅西口、六角橋、片倉町駅前、(一部)西菅田団地、菅田町、鴨居駅前	緑車庫前	緑 浅間町		B	
36系統解説	以前はいろいろな行き先のあるとても楽しい路線だったのですが、一部区間を82系統として独立させ、36系統としては横浜駅西口から緑車庫前までとなりました。それまでは中山駅前まで行っていたのですが短縮となっています。横浜駅西口から東神奈川駅西口、六角橋までは大通りを走り、その先地下鉄片倉町駅前へ向かいます。片倉町駅前に立ち寄り、今度は菅田町へ向かいます。菅田町までの途中、西菅田団地に立ち寄る便もあります。菅田町からしばらく行くと横浜線の鴨居駅前に出ます。鴨居駅前から3つ行くと終点緑車庫前です。以前は中山駅前まで行っていたと書きましたが、中山駅前へは平日と土曜日の片道1本に限り西菅田団地発という「珍」運用もあったそうです。						
37	横浜駅西口	(イベント開催時のみ運行)	三ツ沢グランド	全営業所		—	イベント時のみの運行につき、頻度は不定
	東神奈川駅西口	(イベント開催時のみ運行)	三ツ沢グランド	全営業所		—	イベント時のみの運行につき、頻度は不定
37系統解説	かつては年に1度、市民体育大会があるときのみの運行バスだったのですが、現在ではサッカーのJリーグの試合が三ツ沢競技場で行われる際に会場までの直行バスとして運行されます。また、この系統は決まった担当営業所がなく、イベントの規模に応じて全営業所が担当台数を割り当てられての運転になります。従って、横浜市営バスの路線バスのほとんどの車両にこの系統の方向幕が入っています。また、全ての車両に方向幕はありませんが東神奈川駅まで行く臨時便も時には運行されるようです。						

2. 21系統から40系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
38	鶴見駅西口	柳町、東寺尾5丁目、内路、菊名橋、六角橋北町、六角橋、東神奈川駅西口	横浜駅西口	港北		C	鶴見駅西口～東寺尾5丁目間は頻度B
	鶴見駅西口	柳町、東寺尾5丁目、内路、菊名橋、六角橋北町、六角橋、東神奈川駅西口	東神奈川駅西口	港北		C	
	鶴見駅西口	柳町、東寺尾5丁目、白幡、荒立、東寺尾5丁目、柳町	鶴見駅西口	港北		MC ← EC →	
	鶴見駅西口	柳町、新子安駅西口、大口駅東口、内路、菊名橋、六角橋北町、六角橋、東神奈川駅西口	横浜駅西口	港北		C	日中のみ運行
38系統解説	<p>鶴見駅西口から横浜駅西口まで走行するのがメインの路線です。その他に子系統として鶴見駅西口から荒立まで行く循環線などがあります。メインの横浜駅系統は2007年3月の再編前は鶴見駅西口を出ると柳町、東寺尾5丁目、内路を経て六角橋北町の交差点を直進して片倉町駅前に出て、そこから三ツ沢総合グランド入口を経て浅間下、岡野町経由で横浜駅西口へ向かっていました。路線再編で24系統と路線が統合され、六角橋北町～横浜駅西口間のルートが変更になりました。変更後は六角橋北町交差点で左折し六角橋、東神奈川駅西口を経由して横浜駅西口に至るルートとなりました。荒立循環は東寺尾5丁目の第2京浜との交差付近でラケット型の循環を行います。この循環線は午前と午後で循環方向が異なる運行体型になっています。再編前には途中の内路から大口駅前へ行く子系統、港北小学校前周辺を循環する子系統もありましたがこれらは廃止となりました。2009年4月より暫定運行290系統と統合し鶴見駅西口～新子安駅西口～大口駅東口～六角橋北町～東神奈川駅西口～横浜駅西口という子系統が出来ました。</p>						
39	横浜駅西口	東神奈川駅西口、六角橋、篠原池、小机駅前、東本郷町、鴨居駅前、緑車庫前	中山駅前	緑		C	横浜駅西口～緑車庫前間は頻度B 深夜バス(中距離深夜バス)運行
39系統解説	<p>横浜駅西口から鴨居駅・中山駅方面に向かうバスのうち、横浜線に沿って走る路線です。東神奈川駅、六角橋、篠原池(地下鉄岸根公園駅)、又口橋、小机駅、東本郷町、鴨居駅を経て中山駅に行きます。中山駅まで行くバスは最近ではめっきり減り、多くは緑車庫折り返しとなっているのが残念なところです。また、平日の朝ラッシュ時に限り小机駅折り返しの便もあります。本来市営バスが入らない小机駅構内に入っていきます。ずっと大型車による運行が続いていましたが、1997年頃より中型車を集中投入しその後約10年間は中型車による運行路線となっていました。2007年3月の路線再編で併走区間が多かった3系統の市営バス撤退、区間短縮を受けて大型車による運行が復活しました。</p>						
40	長津田駅前	玄海田、公園前、地区公園	若葉台中央	若葉台	神奈中	C	平日の日中及び土曜、休日運行
	長津田駅入口	玄海田、公園前、地区公園	若葉台中央	若葉台	神奈中	RB	平日の朝夕(夜間)のみ運行 神奈中バスとあわせて頻度A
40系統解説	<p>元々は港南台駅から本郷台駅(更にその前は大船駅)を結ぶ路線でしたがこちらは平成10年1月、廃止になりました。平成14年8月に長津田駅から若葉台中央を結ぶ路線として復活しました。同区間には123系統もありましたが、40系統は新たに出来た道路を走り、玄海田、霧ヶ谷、若葉台近隣公園を経由して若葉台中央に向かいます(123系統は後に廃止となりました)。途中霧ヶ谷～若葉台中央間は65系統と同様のルートを通ります。新たな区間にはこれまで神奈中バスが路線を走らせていましたが、市営バスとの乗り入れ路線となりました。神奈中バスは対距離運賃制度を取っていたため、その路線を引き継いだ40系統も特殊区間料金制を採用しています。 平日の朝夕は長津田駅構内が狭いことなどから駅前まで行かず、一つ手前の長津田駅入口が起終点となります。長津田駅入口は神奈中バスの御幸通りバス停の所に降車用バス停があり、神奈中バスのルートをしばらく行ったところで折返しを行うようです。</p>						